

エゾマツ



NO 77号 夏季号

2006年6月23日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目 次

1

1、主張 20周年の節目に当たって 会長 田村 允郁 2

〈 定期総会から 〉

2、平成18年度 定期総会 広報部 3

平成18年年度 第21回定期総会 議案 別ページ

〈 観察会から 〉

3、いくつかの観察会のレポート 広報部 16

4、小樽支部 春香山観察会 小樽支部 松原 健一 17

5、ありがとう観察会に参加して、など 江別市 村上菜穂子 18

〈 連載 〉

6 忘れ得ぬ花たち Ⅲ 当麻町 野呂 一夫 22

7 夏・カムイのすむ森—野幌 札幌市 小泉 三雄 24

8、知っておくと得する山言葉 富良野市 南部 栄一 25

〈 事務局便り 〉

9 役員会、連絡、報告 研修会 20周年記念事業 事務局 27

〈 各支部などから 〉

10 オホーツク支部の秋季講習会 オホーツク支部 31

11 鶴川海浜植物観察会 32

12 自然体験塾 本会会員 猪師さん主催 33

13 ボランティア・レンジャー育成研修会 34

編集後記 35

〔主 張〕

20周年の節目に当たって

会 長 田 村 允 郁

18年度の活動が始まりましたが、今年度は北海道ボランティア・レンジャー協議会が結成されてから20周年の節目にあたります。

10年前、10周年事業に携わった経験を持つ者として、20周年を迎えることに大きな感慨を覚えますと同時に当会の将来展望に思いを馳せています。

ここ数年、観察会の会員参加態勢について、幾つかの試行をしてきましたが、まだまん十分とは言えないばかりか、札幌中心の活動から、地方会員の方々が参加できる活動にどう広げていくか等々の課題が山積しています。

本会の会則、第2条(目的)に「この会は、会員の自然観察及び自然保護に関する意識の高揚を図り、関係機関と協力のもとに将来にわたって、北海道の自然環境の保全に寄与するとともに、併せて会員相互の親睦を図ることを目的とする」とあります。

この文面には、自然観察、自然保護、自然環境という3つのキーワードが記されていますが、私たちがさりげなく使う「自然」とはどのような意味があるのか、改めて考えてみました。

「自然」という言葉は、江戸時代の蘭和辞典に「natuur」を訳して自然となったと言われています。もっと時代を遡って、親鸞の「未燈抄」という書の中にも「自然」という言葉があり「じねん」という読み方であったと言います。自然は「じねん」すなわち「おのずからしからしむる」ものであり、ありのままに在るものが自然なのでしょう。

一方、西洋では、ギリシャ時代初期の自然哲学派の人々は、自然の営みに関心を寄せ、自然の中にとびだ、自然の中に真理を問いかけました。自然こそ人間の根源だとの主張なのでしょう。

このような「自然」に私たちはどのように向き合ったらよいのでしょうか。それは、自然が好き、生物が好き、樹木や野草が好きというやむにやまれぬ気持ちを持つことだとおもうのです。これは理論ではなく、自然が好きという心の問題であり、「じねん」の世界からの出発という思想に重ね合わせることだとも思うのです。

理屈はこのぐらいにし、ともかく会員一人ひとりが自然を慈しみ愛する心をもって、個々人の活動や組織としてのボラレン活動に参画していきましょう。その中から、ボラレンの将来像を模索していき20年目の節目にしていきたいと思います。

多くの参加者のもとに定期総会が成功裡に行なわれる

今年の定期総会は4月22日、環境サポートセンターで行なわれました。総会を前に13時から「研修会」、本会員の豊澤勝弘さんからいろいろなキノコというテーマでスライドを用いて講演が行われました。全道をくまなく歩かれ、キノコの生態やそれぞれの特徴など、とても興味のある話しをしていただきました。キノコの種類がとても多く奥が深いことを教えられるとともにその該博さにも驚かされました。豊澤さんはとても多忙のようですが、機会をみてキノコについて書いてもらいたいと考えています。

総会に移り総務で司会の三崎さんから、出席者38名、委任状61名 計99名。(会員数132名)大会規定を満たし総会が成立していることが報告されました。

川端会長の挨拶。つづいて、来賓の道環境室自然環境課主査小森節子さん、野幌森林公園事務所所長相馬博明さん、同公園利用課長野口光紀さん、同主任の藤本剛さん、同主任の徳永剛さんから、今日の環境をめぐる状況などが話され、わたしたちの活動に対して励ましの挨拶をいただきました。



スライドを用いて講演される豊澤さん



その後、議長選出になり小栗さん(遠軽町)を選んで議事に入り、事務局から1号議案、「平成17年度事業」報告が提案されて承認され、同じく「決算報告並びに監査報告」があつて同様に承認されました。

2号議案の提案に入り、「平成18年度事業計画」、「予算」が承認されました。

そのなかで、予算計上の根拠になっている会員の人数確定に関して質問などが出されました。

3号議案に入り、今年は20周年の大きな記念行事、フィールドガイド(仮名)の作成、記念講演会、会員作品展、「エゾマツ」特集号の発行などが提案されました。

それらともかかわりますが、会員から行事を含めて私たちの運動をもっと市民に知ってもらうために宣伝を強化する必要がある、という意見が出されました。具体的には、ホームページの作成、市の広報の活用、独自のピラの作成と配布、など。今後、これらの意見を参考にしながら活動をしていくことを確認しました。

つづいて、役員改選に入り、役員選考委員会の佐々木幸夫さんから、会長 田村允郎、副会長 五十嵐一夫、佐藤清一、事務局長 春日順雄、はじめ他に10名の役員名が提案されました。その提案をみんなで承認しました。

(なお、決定した役員名はこの機関誌の事務局便りの欄に載せてあります)

新会長の田村允郁さんからの挨拶、今期で会長を退任される川端功治さんからの挨拶があって総会を成功裡のうちに終了しました。

川端会長には長い間、とてもお世話になりました。ありがとうございました。今後は顧問として支援をいただくことになりました。



新会長の田村さん



退任され顧問になられた川端さん

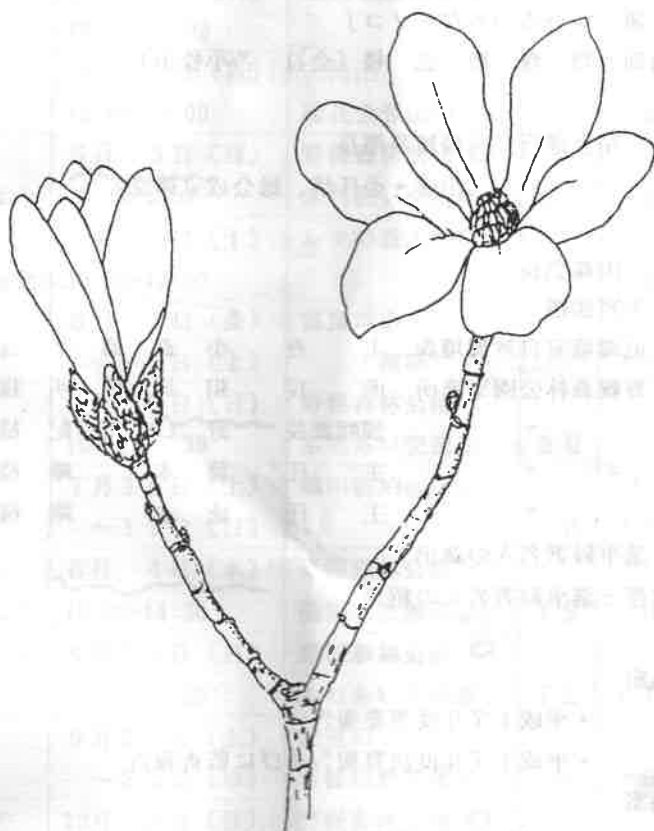
写真は役員の中利男さんからいただきました。

&& 次号の発行は10月下旬 原稿の締め切りは10月15日

6月末行なわれる東大演習林での研修会を特集したいと考えています。

皆さんの自然観察、活動など、いろいろな分野にまたがる原稿を待っています。原稿は広報部 北広島 佐藤清一まで。

平成18年度 第21回定期総会



日 時 平成18年4月22日(土)

13:00~16:30

場 所 北海道環境サポートセンター

(札幌市北区北7条西5丁目千代田ビル 011-707-9025)

北海道ボランティア・レンジャー協議会

平成18年度 第21回定期総会

日 時 平成17年4月22日(土) 13:00~16:30

(環境サポートセンター)

- ・受付 13:00~13:30
- ・研修会 13:30~14:50
- ・総会 15:00~16:30

《研修会》

◇演 題 「いろいろなキノコ」

講師 豊澤 勝弘 様(会員 苫小牧市)

《定期総会》 司会進行 三崎総務部長

(出席・委任状、総会成立確認)

1. 開 会

2. 会長挨拶 川端会長

3. 来賓紹介と来賓挨拶

道環境室自然環境課	主 査	小 森 節 子 様
野幌森林公園事務所	所 長	相 馬 博 明 様
〃	鑑 査 課 長	野 口 光 紀 様
〃	主 任	藤 本 剛 様
〃	主 任	徳 永 剛 様

4. 議長選出と議事録署名人の選出

5. 議長就任挨拶と議事録署名人の紹介

6. 議 事

1号議案

- ・平成17年度事業報告
- ・平成17年度決算報告並びに監査報告

2号議案

- ・平成18年度事業計画(案)
- ・平成18年度収支予算(案)

3号議案

- ・20周年記念事業
- ・役員選考
- ・その他

7. 議長退任

8. 退任役員・新任役員の紹介と挨拶

9. 閉 会

《連絡事項》

<1号議案>

1. 平成17年度事業報告

(1) 観察会事業

観 察 会 名	日 時	集 合 場 所	参加人数		備 考
			一般	会員	
春の花をみつけよう 観察会	4月28日(木) 10:15~12:30	野幌森林公園 <input checked="" type="checkbox"/> 開拓記念館前	130	16	協力
春のありがとう観察会	5月15日(日) 10:00~14:30	野幌森林公園 <input checked="" type="checkbox"/> ふれあい交流館前	24	11	協力
恵庭自然観察会	5月22日(日) 10:00~12:00	恵庭公園駐車場	7	3	主催
三角山登山観察会	5月29日(日) 10:00~14:00	三角山 緑花会登山口	7	9	主催
森の仕組みを観察 しよう	6月5日(日) 10:15~12:30	野幌森林公園 <input type="checkbox"/> ふれあい交流館前	32	9	協力
北広島レクの森 観察会	6月19日(土) 10:00~12:00	レクの森入り口	10	6	主催
東大演習林観察会	6月1日(金) ~2日(土)	富良野市 麓郷		14	主催
葉っぱの観察会	7月10日(日) 10:15~12:30	野幌森林公園 <input type="checkbox"/> ふれあい交流館	30	7	協力
鶴川観察会	7月16日(土) ~17日(日)	鶴川宿泊	8	10	研修を兼ねる 主催
暑い夏の涼しい森を 体験しよう	8月4日(木) 10:00~14:30	野幌森林公園 <input type="checkbox"/> 開拓記念館前	19	6	協力
木の実を探してみよう	9月11日(日) 10:15~12:30	野幌森林公園 <input type="checkbox"/> ふれあい交流館	72	11	協力
オホーツク支部 研修会	9月24日(土) ~25日(日)	北見市 若松自然休養林		6	オホーツク支部 主催
10kmエコハイキング	10月2日(日) 10:15~14:30	野幌森林公園 <input type="checkbox"/> 開拓記念館	4	5	主催
秋のありがとう観察会	10月16日(日) 10:00~14:30	野幌森林公園 <input type="checkbox"/> ふれあい交流館前	29	8	協力
晩秋の森観察会 登満別コース	11月3日(木) 10:00~14:30	野幌森林公園 <input type="checkbox"/> ふれあい交流館前	11	8	主催
西岡公園 自然観察会	11月23日(木) 10:00~12:00	西岡公園事務所前	8	9	主催
12月の森の観察会	12月16日(木) 10:15~12:30	野幌森林公園 <input type="checkbox"/> 開拓記念館前	9	6	主催

冬の円山登山観察会	1月15日(日) 10:00~12:30	円山登山口	6	8	主催
藻岩山登山観察会	2月5日(日) 10:00~14:30	慈恵会登山口	1	6	主催
野幌の春を探そう	3月26日(日) 10:00~12:00	野幌森林公園 ふれあい交流館前	31	8	協力
会員参加総数				166	

●小樽支部観察会

観 察 会 名	日 時	参加人数				備 考
		一般	会員	補助	計	
赤岩山～オタモイ海岸	4月24日(日)	24	5	3	32	
オコバチ～穴滝	5月21日(土)	31	4	3	38	
八剣山	6月3日(金)	19	2	3	24	バス
アポイ岳	6月30日(木)	19	2	2	23	バス
手稲山麓	8月27日(土)	13	3	2	18	
塩谷丸山～天狗岳	9月11日(日)	37	4	3	44	
恵庭岳	10月4日(火)	19	3	2	24	バス
小樽市有林	11月6日(日)	21	5	-	26	納会
天狗東斜面	2月19日(日)	7	3	-	10	市広報取材
赤岩～オタモイ	3月26日(日)	12	4	1	17	道新取材
計		202	35	19	256	

(2) 研修会事業

- ・4月16日(土) 講演 「熱帯林の修復と砂漠緑化」
元森林総合研究所 前田 清 様
 - ・7月1日(金)～2日(土) 富良野東大演習林観察会(研修会を兼ねる)
 - ・7月3日(日) ボランティアレンジャー研修会(野幌森林公園ふれあい交流館)
 - ・7月16日(土)～17日(日) 鶴川観察会(研修会を兼ねる)
 - ・9月24日(土)～25日(日) 北見観察会(研修会を兼ねる) 北見支部主催
- (注) 各種観察会の下見を会員研修の場として実施

(3) 他団体への協力派遣事業

- ・7月30日(日) 北広島自然教室 解説員として 4名派遣
- ・8月 3日(金) 白石北在宅支援センター(大沢コース) 雨天のため派遣中止
- ・8月10日(水) 白石北在宅支援センター ガイドとして2名派遣
- ・9月27日(火) 江別市立第二小学校3年生校外学習 ガイド 8名派遣

(4) 広報誌「エゾマツ」「自然観察NOW」発行事業

- ・6月23日(金) エゾマツ 73号 発行
- ・10月28日(水) エゾマツ 74号 発行
- ・1月19日(木) エゾマツ 75号 発行
- ・4月 6日(水) エゾマツ 76号 発行
- ・自然観察NOW 8回発行(野幌森林公園観察会参加者に配布)

(5) 会 議

- ・17年度20回定期総会 4月16日(土) 環境サポートセンター
- ・17年度第1回役員会 5月11日(水) 環境サポートセンター
- ・17年度第2回役員会 9月16日(金) 環境サポートセンター
- ・17年度第3回役員会 1月19日(木) 環境サポートセンター
- ・17年度第4回役員会 4月 6日(木) 環境サポートセンター

(6) その他の活動

- ・4月16日(金) 新年度行事への各機関へのPR 事務局
- ・4月22日(金) 環境道民会議 かでる2・7 事務局出席
- ・5月27日(水) 野幌の森道民プロジェクト協力
- ・7月 3日(月) 石狩支庁と北広島自然教室について打ち合わせ
- ・8月14日(日) 育成研修修了者に本会加入勧誘(7名加入)
- ・9月16日(土) オホーツク支部との交流懇親会
- ・12月 3日(土) ボランティア・レンジャー協議会忘年会
- ・2月15日(水) 環境道民会議研修会(エルプラザ)
- ・3月18日(土) 19年度以降の「ふれあい交流館」についての説明会
- ・3月23日(水) 18年度育成研修会他 道自然保護課に依頼
- ・3月27日(月) 定期総会出席依頼発送
- ・4月 7日(金) 18年度行事について各機関へのPR 事務局

(7) 備 品

- ・双眼鏡15台、望遠鏡2台、聴診器5本、携帯救急医療箱1個(公園事務所保管)
- ・携帯無線機2台1組(使用廃止手続き)
- ・ファックス電話2台・コピー機1台(使用不能のため廃棄手続き)

平成17年度収支決算書

平成17年4月1日～平成18年3月31日

収入額 577,182円

支出額 393,040円

差引 184,142円(次年度へ繰越)

収入の部

単位:円

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a-b)	摘要
前年度繰越金	190,774	190,774	0	
年会費	390,000	375,000	15,000	
雑収入	9,226	11,408	▲ 2,182	保険料、協力謝礼金
合計	590,000	577,182	12,818	

支出の部

単位:円

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a-b)	摘要
総務部費	90,000	85,280	4,720	通信費、会議室借用費、振替手数料
事務局費	100,000	63,722	36,278	通信費、事務用品費
研修部費	100,000	47,028	52,972	研修会謝礼金、研修雑費
活動費	100,000	79,900	20,100	地方支部活動費、観察会交通費
広報部費	160,000	117,110	42,890	会報エゾマツ制作費、郵送費
予備費	40,000		40,000	
合計	590,000	393,040	196,960	

平成17年度 財産目録

平成18年3月31日

単位:円

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
通常貯金	1,124,806	一般会計繰越金	184,142
		20周年準備金	940,664
計	1,124,806	計	1,124,806

備品 ファックス2台 コピー機1台

(寄贈品) 望遠鏡2台、双眼鏡15台、聴診器5本、携帯無線機1組、携帯救急医療箱1個

監査報告書

私たち監事は、会則第11条の5に基づき、平成17年4月1日から平成18年3月31日までの会計処理について、会計帳簿および証憑書類を精査確認した結果、適正なものと認めます。

平成18年4月17日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

監事 猪師 勉

監事 高松文雄

〈2号議案〉

1. 平成18年度事業計画(案)

(1) 事業計画の方針

目 標 「自然との共存、日常の実践から」

重 点

1. 観察会の企画や実施運営についての研修と実践に努める。
2. 会員の意見や社会の要請を受け止め、会の活動改善に生かしていく。
3. 育成研修会での入会者の勧誘に努めてる。
4. 20周年事業を多くの会員の参加を得て円滑に進めていく。

(2) 会 議

① 定期総会

平成18年4月22日(土) 環境サポートセンター

② 役員会

理事会を年4回(5月、9月、1月、3月)に開催、三役会は必要に応じて開催。

(3) 観察会・研修会・調査活動

- ① 観察会については別紙による。また、サークル活動の観察会があれば随時実施。
- ② 研修会についても別紙による。また、会員の要望と必要に応じ実施。
- ③ 研修会、講演会の実施により、会員の資質の向上を図る。
- ④ 観察会の下見と実施後の反省をもとにした記録の集積を図る。

(4) 他団体への協力

- ① 観察会ガイドの要請については、主催の目的等を把握し協力していく。
- ② 各関係機関や団体が行う自然環境保全に関わる行事や調査には参加していく。

(5) 広報誌「エゾマツ」発行

- ① 年4回(6月中旬、10月中旬、1月中旬、3月下旬)の発行
- ② 20周年特集号を今年度中に発行。
- ③ 誌面内容と体裁の充実に努力していく。
- ④ 観察会一般参加者に「自然観察NOW」の配付

(6) 支部や地方会員の活動の活発化。

- ① 支部や地方会員の活動化に事務局は積極的に取り組む。
- ② 各地での観察会・研修会計画については20周年行事として実施していく。
- ③ 各会員の思いや要望の発信を受けとめたり、広報誌による交流を活発化させる。
- ④ 会員数を増やすための働きかけを強めていく。

〈2号議案〉

1. 平成18年度事業計画(案)

(1) 事業計画の方針

目 標 「自然との共存、日常の実践から」

重 点

1. 観察会の企画や実施運営についての研修と実践に努める。
2. 会員の意見や社会の要請を受け止め、会の活動改善に生かしていく。
3. 育成研修会での入会者の勧誘に努めてる。
4. 20周年事業を多くの会員の参加を得て円滑に進めていく。

(2) 会 議

①定期総会

平成18年4月22日(土) 環境サポートセンター

②役員会

理事会を年4回(5月、9月、1月、3月)に開催、三役会は必要に応じて開催。

(3) 観察会・研修会・調査活動

- ①観察会については別紙による。また、サークル活動の観察会があれば随時実施。
- ②研修会についても別紙による。また、会員の要望と必要に応じ実施。
- ③研修会、講演会の実施により、会員の資質の向上を図る。
- ④観察会の下見と実施後の反省をもとにした記録の集積を図る。

(4) 他団体への協力

- ①観察会ガイドの要請については、主催の目的等を把握し協力していく。
- ②各関係機関や団体が行う自然環境保全に関わる行事や調査には参加していく。

(5) 広報誌「エゾマツ」発行

- ①年4回(6月中旬、10月中旬、1月中旬、3月下旬)の発行
- ②20周年特集号を今年度中に発行。
- ③誌面内容と体裁の充実に努力していく。
- ④観察会一般参加者に「自然観察NOW」の配付

(6) 支部や地方会員の活動の活発化。

- ①支部や地方会員の活動化に事務局は積極的に取り組む。
- ②各地での観察会・研修会計画については20周年行事として実施していく。
- ③各会員の思いや要望の発信を受けとめたり、広報誌による交流を活発化させる。
- ④会員数を増やすための働きかけを強めていく。

平成18年度

観察会・研修会予定(案)

北海道ボランティア・レンジャー協議会

月	観察会・研修会	実施日時	下見	集合場所	備考
4	「春の花をみつめよう」観察会	18.4.27(木)10:00~12:30	4.20 10:00	交流館(大沢口)	主催
5	春のありがとう観察会	18.5.14(日)10:00~14:30	5.13 10:00	交流館(大沢口)	主催・昼食持参
	恵庭公園観察会	18.5.21(日)10:00~12:00	5.20 10:00	恵庭公園駐車場	主催
	三角山登山観察会	18.5.28(日)10:00~14:00	随時	緑花会前登山口	主催
6	森の新緑観察会	18.6.11(日)10:00~13:00	6.10 10:00	交流館(大沢口)	主催・交流会食事
	北広島レクの森観察会	18.6.18(日)10:00~12:00	6.17 10:00	レクの森入り口	サークル活動
	富良野東大演習林研修	18.6.30 ~7.1		富良野麓野	主催
7	初夏の森観察会	18.7.9(日)10:00~12:30	7.8 10:00	交流館(大沢口)	主催
	芸術の森周辺観察会	18.7.23(日)10:00~12:00	7.22 10:00	停留所前	サークル活動
8	森の探検隊	18.8.3(木) 10:15~12:30	7.27 10:00	開拓記念館	主催
	鶴川海浜植物観察会	18.8.26~27		鶴川四季の館	主催
9	秋の花でにぎわう森を歩こう オホーツク支部研修会 (20周年行事関係)	18.9.14(木)10:15~14:30	9.7 10:00	開拓記念館	主催・昼食持参
10	森の匂いをかごう (20周年行事関係)	18.10.15(日)10:00~14:30	10.14 10:00	交流館(大沢口)	主催・昼食持参
11	晩秋の森観察会 登満別コース	18.11. 3(金) 10:00~14:30	11.2 10:00	交流館(大沢口)	主催・昼食持参
	秋のありがとう観察会	18.11.12(日) 10:00~12:30	11.11 10:00	交流館(大沢口)	主催・昼食持参
	西岡水源地自然観察会	18.11.23(木) 10:00~12.30	11.22 10:00	管理事務所前	主催
12	冬の森の観察会	18.12.10 (日)10:15~13:00	12.9 10:00	交流館(大沢口)	主催・交流会食事
1	円山登山観察会	19.1.14(日)10:00~12:30	1.14 10:00	円山登山口	主催
2	藻岩山登山観察会	19.2.25 (日) 10:00~14:30	2.24 10:00	藻岩会登山口	主催
3	野幌の春を探そう	19.3.25(日) 10:00~13:00	3.24 10:00	交流館(大沢口)	主催・交流会食事

◆18年度 活動の重点目標

森の楽しさを体感できる観察会のありかたを考える。

- ・ 森の知識を伝える活動
- ・ 森から学ぶ活動
- ・ 森を介して人の輪を広げる活動

◆当会20周年の節目を意識し、めりはりのある観察会にしよう。

◆会員相互の研修会やサークル活動の活発化を図ろう。

2006年小樽支部自然観察会予定表

(北海道ボランティアレンジャー協議会・小樽支部)

No.	月/日(曜日)	行き先	見どころ	集合場所・時間
1	4/23(日)	オタモイ～赤岩山、	春植物	路線バス、オタモイ入り口下車、9時、
2	5/27(土)	春香山、	初夏の植物	桂岡浄水場先、銭函川沿駐車場、9時
3	6/22(木)	定山溪天狗岳	野草・野鳥	貸切バス小樽駅向い、第3ビル前バス停、7時
4	7/12(水)	富良野岳	高山植物、	貸切バス、小樽駅向い第三ビル前、バス停付近、4時、
5	7/22(土)	オコバチ山～穴滝	夏の樹林帯	自然の村前駐車場、9時、
6	9/16(土)	塩谷丸山～最上町	野草、キノコ	JR塩谷駅前駐車場 8時30分
7	10/20(金)	風不死山、	紅葉	貸切バス小樽駅向、第3ビル前バス停7時
8	11/11(土)	小樽市有林内	カラマツ黄葉	路線バス商大線終点 9時、
9	2/18(土)	天狗山東斜面	カンジキ歩き	天神浄水場前広場 9時、
10	3/25(土)	天狗山～オコバチ川、	カンジキ歩き	天狗山ゴンドラ乗り場 9時30分、

参考

- ①約1週間前、道新小樽版、読売金曜夕刊等に集合場所、時間等を再掲します
- ②天候外の都合で、日時等変更する事も有りますので事前に申し込み願います
- ③参加料は、1人300円、貸切バスは実費、当日受付で願います、
- ④自家用車の方はその旨連絡願います(駐車場の状況、乗り合わせの可否等)
- ⑤申し込み、問い合わせ等は、0134-27-1701、北原迄、

平成18年度予算(案)

収入の部

項目	予算額	前年度予算額	摘要
前年度繰越金	184,142	190,774	
年会費	375,000	390,000	会員125名@3000円
雑収入	10,858	9,226	保険料、協力者礼金
合計	570,000	590,000	

支出の部

総務部費	90,000	90,000	総会案内等通信費、会議室借用費、振替手数料
事務局費	100,000	100,000	通信費、事務用品費
研修部費	100,000	100,000	研修会講師謝礼金、研修雑費
活動費	100,000	100,000	地方支部活動費、観察会交通費
広報部費	160,000	160,000	会報えぞまつ制作費、郵送費
予備費	20,000	40,000	
合計	570,000	590,000	

〈3号議案〉

1. 北海道ボランティア・レンジャー協議会20周年記念事業

- ・20周年の節目にあたり、活動をふりかえり、会の将来を展望するための事業を行う。
- ・17年度総会で承認された事業を具体化していく。

(1) 記念事業

①フィールドガイド(仮称)の作成

- ・作成スタッフによる資料の整理と補充作業を進め冊子を今年度中に作成し会員に配布。

②記念講演会や研修会の実施

- ・9月～10月の開催にむけ、日時、講師、会場等を交渉中。
- ・地方支部での研修会の支援活動を進める。

③会員作品展を開催

- ・写真、絵画、工芸等の作品を会員から募り、展示する。

④エゾマツ特集号の発行

- ・広報部により発行の予定。

- ##### (2) 講演会、研修会や作品展の詳細については、6月発行の「えぞまつ」や必要に応じてハガキ等で会員に周知する。

2. 役員選任(役員選任要領による)

3. その他

いくつかの観察会のレポート

- ・ 1, 2, 3は野幌森林事務所との共催
- ・ 私たちの仲間の参加者は約10人位

1、4月27日 「春の花をみつけよう」 参加者75名。

今回の案内書に書かれた春日事務局長のコメントから。

・ 沢山の参加者があり。みんな春を待ち望んでいるんだなあ！ 4月に入ってからの季節の歩みはいたってスロー！スロー！春の花イッパイはもう少し先。それでも咲き始めたばかりのフクジュソウやエゾエンゴサクを見つけたら「アッタ！アッタ！」「キレイ！キレイ！」の再会の喜び。「芽を出したばかりだね！」の細やかな観察も。待ち望んでいた春を見つけた参加者の喜びがあふれていた。

2、5月14日 「春のありがとう観察会」 参加者 32名

今回の案内書に書かれた小林研修部長のコメントから。

・ あいにくの雨模様にもかかわらず参加者の皆さんは、春の一時期を彩る花々を観察しながら、時折聞こえる野鳥の声に聞き入っていました。観察会の後半は天気も回復し、なかなか見られない「ヤブサメ」を観察することができ、参加者の皆さんは大喜びでした。公園利用者のマナーが年々向上してきたお陰で、春のありがとう観察会を始めた頃に比べ、ゴミの量は激減してきており、私たちが持ってきたレジ袋のほうが多く感じられたくらいです。

3、6月11日 「森の新緑観察会」 参加者 73名

案内書には研修部小林さんが「ハルニレ」の種子についてわかりやすく書いています。観察会の終了後、事務所の部屋で参加した人たちと定点観測した「四季の森林公園」や外来種「アライグマの生態と捕獲」などのビデオとわかりやすい解説があつておもしろい企画でした。参加した人たちとの昼食会も楽しかった。

4、北広島レクの森での観察会 参加者14名

参加者も昨年より3名増え、とても博識な人たちが多く質の高い観察会になりました。

私たちも教えられました。

なお右のポスターは駅の広場に掲示してもらったもの

レクの森での観察会
初夏の植物は、観察しよう！



新緑の森観察会
14名12名 30分 100円

小樽支部春香山観察会

小樽支部 松原健一 (2006. 5. 27)

小樽支部の観察会は登山しながらが特徴で、第2回目は5月27日(土)に小樽近郊の春香山(907m)で行いました。気楽に登れるためか初参加者も多く、総勢26名で4班に分かれて出発しました。今年から、各回ごとにリーダーを選び、その人が下見をしたり、資料を作るといふことで始めました。

今回は私がリーダーといふことで、いつもは最後尾の班の後ろにくっついていただけだったのが、オリエンテーションや先頭に立って歩くなど初めての経験をさせてもらいました。今まで北原支部長が1人で準備・進行していた苦労に頭がさがります。

当日は天候に恵まれ、エゾハルゼミの初鳴きが騒がしい中を緊張して出発しました。5月の新緑にしか見られない「春もみじ」をめりながら、おなじみのニリンソウ、キクザキイチゲなどの白い花、オオタチツボスミレなどの紫の花、標高が上がるとシラネアオイやカタクリがピンクの花を咲かせています。スミレサイシンのかたまりがあり、初めて認識しました。

標高700m付近に、山小屋の銀嶺荘(有料、水曜定休日)があり、ここで昼食です。ここは通年管理人がいる全道でも3つしかない山小屋の1つだそうです。山小屋から上はまだ雪が残っており、急斜面をつぼ足で登ると頂上で、石狩湾を挟んで残雪がある増毛の山々がはっきり見られました。記念写真を撮り下山ですが、半数の人が尻滑りしていたようで、今日のホームランは「残雪尻滑り」でした。この後も富良野岳、風不死山など小樽から遠くの山も計画され、小樽支部も頑張っています。

春もみじ	
新緑の季節しか分からない緑のバリエーションを主体にサクラのピンクが混じる春の山模様	緑色・・・ヤナギ、シナノキなどの葉 黄緑色・・・イタヤカエデの葉 紅色・・・アカイタヤの葉

ありがとう観察会に参加して

江別市 村上 菜穂子

しょっちゅう入り浸っている野幌森林公園ですが、いつもはゴミを横目に自分の楽しみばかり追い求めている引け目の補いに、春秋のゴミ拾い『ありがとう観察会』には参加するようにしています。しかし困るのはゴミを探しながらだとゴミしか見えず、花が目に入らなくなる事にして、それで今回はゴミ拾い役としての、夫を強引に誘っての参加となりました。

前夜からの雨を引き摺って、小雨ぱらつく中での観察会のスタートでしたが、傘が必要な程でもなく、またしっとりと濡れた森も良い雰囲気です。でも咲き始めたばかりのニリンソウは寂しく項垂れ、白さを誇るオオバナノエンレイソウも元気がありません。それでも黄色いイタヤカエデやハウチワカエデの赤い花が咲き始めており、何よりもツバメオモトの可憐さに今年もため息が出ました。仲間と賑やか（ヒトリシズカ）も群生した姿を現し、既に金平糖（実）と化したフクジュソウに春の勢いの早さも感じました。

春の観察会というのは何かと食べる話に行くのが普通で、やれコゴミ（クサソテツ）だたらんぼ（タラノキ）だアズキナのお浸しが旨いだの、トリカブトをこっそり味噌汁の具にしようかとか、まだ2枚葉のバイケイソウをギョウジャニンニクと間違えて喜んだり（毒です。喜んではいけません）大騒ぎするのが楽しいのですが、採ってはいけないこの森で、間違えて毒草を摘んでいる人にはわざ

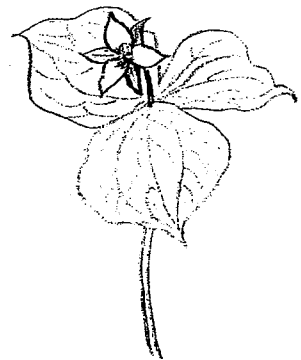
と教えないで食べさせてしまえば良いのだ、
と言う誰かの意見は少々怖い気もしますが、
注意すると却って居直られて怒られるという
話にも困ってしまいます。

救いは例のツタ切りおじさんが、現場を押
さえた人の訴えで、ツタと言えどもこの森の
大事な構成員の一つである事を納得してもら
ったという話が聞けた事でしょうか。

帰化植物の年ごとの侵入のみならず、逆に
人が植えたシラネアオイが今年も芽を出して
いるのを見るにつけ、この森自体の存続にも
危機感が湧きます。

昼食前には晴れ間が広がり、ニリンソウも
きっぱり上を向き始め、暑くなり出した人達
が上着を脱ぎ始めると、遊歩道上のアオジも
やっと晴れたとばかりに餌探しに夢中で中々
逃げません。お陰で皆とたっぴりと鑑賞でき
ました。

結果的には夫のゴミ拾い能力はさっぱりで
したが、秋にも火バサミを押し付けて同道し
てもらうことに決めました。ゴミは一つでも
落ちていると更なるゴミを引き寄せますの
で、これからも参加して、綺麗な森の維持に
一役買いたいと思っております。



木イチゴの思い出

江別市 村上 菜穂子

野幌森林公園に通う様になって何年になるでしょう。始めた頃は花の名前がさっぱり頭に入りませんでした。が、3年ほど辛抱するうちに頭の中に花の名前を入れる引き出しが完備されたらしく、どんなものでも一発で入る時期が暫く続いたものでした。今では考えられない話ですが。

思えば最初に花に興味を持ったのは、まだ独身の頃仕事を辞めて時々バイトをしつつ、お金の掛からない暇つぶしに北広島のレクの森に入り浸ったのが始まりでした。はい、私結婚するまで広島市民でしたので。まだ自然を守ろうなんて意識もなく、木々もあまり背が高くなくて日当たりの良い場所が多く、木イチゴを摘んでジャムやジュースを作るうちに、このイチゴの名前は何というのだろうと、本屋で立ち読みして（図鑑を買う気もなかった）エビガライチゴやクロイチゴの名前を知ったものでした。

それで知りたい名前が全部判ったなら、そこで興味は終わったのでしょうか、一つだけどうしても判らないイチゴがあり、時々思い出して探すというのが、結婚してからも続いていたのです。本は好きなので江別に来てからも図書館で図鑑をめくり、その名が帰化の『クロミキイチゴ』らしいと知った時には、矢張りパートを辞めた後の暇つぶしに、大沢口からの入り浸りが始まっていました。

それはとても大きな白い花が咲き（他のイ

チゴの花はささやかなのに)、桑の実を大きくしたような形であまり美味しくありません。それで収穫が少なかった時の量増しに仕方なく少量摘むだけの代物だったのですが、これがなければ図鑑をめくる習慣も出来ず、他の花に目を留めて『なんて名前の花なんだろう』と、調べてみようという気も起きなかったかも知れません。

レクの森の高校側に群生していたものですが、何年か前に確かめに行った時には殆ど消えていました。公園が出来てから30年近く経っているのですから、その環境も少しずつ変化しているはずです。私の意識も変化して、公園内での採取などは決してしなくなり、仲間にも採るなと口を酸っぱくして言うようになりました。

また私の脳内環境も大いに変化して、最近では毎年同じ物を見て『はて、これ去年も名前探した筈なのに、なんて言ったっけ』を繰り返す様になりました。とはいえ折角作った引き出しを今年もぎしぎし引き出して、滑りを少しでも良くすべく努力する日々を過ごしています。

広報部から

5月の「春のありがとう観察会」に参加された村上菜穂子さんに寄稿をお願いしました。

すてきな原稿をいただきありがとうございました。

由来を知りたい=ヨコヤマリンドウ=

高山植物を整理する段階で、名の由来も付記するようにしていた。さて、「ヨコヤマ」は人名なのか山名なのか、なぜヨコヤマなのだろう。そこは長い間空欄が続いていた。思い込んだら……の性癖で、図鑑や資料を漁り続けた。しかし、分からずじまいでいたずらに時間が過ぎていった。

ある時、植物研究家の先輩とイッパイやりながら、「ヨコヤマの糸口が切れてしまった」と口説いた。「わたしもわからん」と言いながらも、その後先輩は大いに手を煩わしたに違いない。ついに記載されている文献のコピーを頂いた。長い年月をかけての一件落着であった。

ヨコヤマリンドウ 明治26年横山壯次郎氏は地質調査の爲千島に赴き多数の植物を採集した。本和名は記念の爲氏の姓をとったもの。

*

黒岳の石室へ下る山道脇の草地が、この花との初対面であった。どうやらリンドウの仲間らしい。まずは記録をとり、そして何とかいい姿を写真に収めようと、風の静まるのを待っていた。風の強い日だった。すると突然「何してるんだ、すぐそこを出なさい!」。監視人だ。それでも動こうとしないので、「訴えるぞ!」。どこへどう訴えるのか知らないが、急いでシャッターを切り、慄然としてその場を後にしたのであった。

部屋はどうなる=ユウバリリンドウ=

四囲の三方に数々の花で飾った岩屏風を立て、もう一方はミヤマハンノキの緑に続き、床には灰白色の礫を敷きつめた10畳間ほどの部屋が富良野

岳の一隅にある。ここは、ユウバリリンドウの“個室”であった。

初めてこの花に出会って以来、少なくとも年に一度は仙境とも思えるこの部屋を訪問し、高嶺の恋人たちと至福の時を過ごす、そんな幸せな夏を何年も味わってきた。



生態系は、ひとたび変化の兆しを見せると加速度的に進行する。一昔前までは、エゾルリソウやミヤマオダマキ、ミヤマアズマギクなどは部屋の周囲のみに住んでいた。それが、コケ類の占める面積が増えだしたなと思ったら、あっという間に侵入して、今では様々な花で豪華に飾った部屋へと姿を変えた。

美しい花が増えるのは嬉しいことだが、小柄でしかも2年草の彼女たちである。自然の摂理とはいえ、いつしか記憶の中の存在になるのだろうか。

追記

昭和30年の始め頃、誘われて永山岳に登りました。それまでは、主として教材用にと平地の植物相手だったのですが、この登山を契機に高山植物の虜になってしまいました。当時は見るもの聞くもの全てが目新しく、この2種のリンドウも、当然のこと私にとっては“新種”でした。

当時手元にある図鑑は、北隆館発行の「牧野日本植物図鑑」と「日本高山植物図鑑」のみでした。ユウバリリンドウは「日本高山」に記載がありましたが「ヨコヤマ」はいずれにもないのです。それでも、程なくして種名は知ることができましたが、名前の由来は分かりませんでした。

つまるところ、名の由来を辿って千島へ行き着いたのですが、千島探險者を記念するために、氏名を和名に冠した植物が20種類あること、また、国後や色丹など地名に因む植物が19種類あることも知ることができました。

前川文夫著「植物の名の話し」(八潮・1981刊)で、著者はこう言います。「要は名は、その時代時代の背景とそれをせい一杯に受け止めていた民衆の生活の知恵の縮図である」と。

夏・カムイのすむ森～野視

札幌市東区 小泉 三雄

‘03年6月8日(日) 晴れ

70名参加のにぎわいと、エゾハルゼミの大音声が野鳥の声をかき消していた。北海道には11種、一番多いのはエゾハルゼミ。名前には「エゾ」がつくのは5種。これが北海道固有種かという、エゾチツゼミ以外は本州にもすむ。エゾハルゼミの鳴き声は、とても複雑だが「ミョーキン、ミョーキン、ケケケケケ」は有名だが、九州では「ジョーキン、ジョーキン、シネシネ」というのがある。セミに対する感じ方も、中国では土の中から出てくるセミに再生の力を見て、ひすいなどでこしらえたセミを死者の口に含ませる風習があった。日本では「空蟬」という言葉があるように、セミの脱殻から命や人のむなしさを読みとった。アイヌ民族はセミが夜啼くと洪水になると言ういい伝えもある。民族の違いも興味深い。セミの声がいろいろ考えさせてくれた。

「落とし文」って？小さな巻き物が落ちていたりぶら下がっています。葉の巻き物は、実際にはその名も「オトシブミ」と呼ばれる小さな甲虫の仲間の作品です。比較的目につきやすい、オオコブオトシブミがエゾイラクサに「ゆりかご」を作っていました。

「どうして脚が太いのか」問いかけた、参加者がその働きと機能について答えてくれた自然の仕組みまでも説き明かす知識をもっている、自然解説員ばやばやできないね。

‘03年7月17日(日) 晴れ

天を覆う巨木の梢からやさしい木漏れ日が射し、肌寒い風に若葉の青々とした匂いが運ばれてきた。新設された樹木の解説板が目につき活用を思い立った。解説板に「胃腸薬の原料になるキハダ ……」とある。そこで、内皮を乾燥し販売されている生薬「オオバク」を実際に口にし、苦みを感じてもらい、大峰山洞川(弓削)の「蛇羅尼助」の実物を見せた。樹木が生活の中に生きていることを感じてもらえたと思う。

「風格のあるイチイ ……」とある。オンコの語源ははっきりしないが、一説によると東北地方の方言で、オンコは朱色を帯びるのでアカギ(赤木)が種々転じオンコになったといわれている。やや暗い林の中に立つ胸高直径54、4cmの前で「風格」を樹齡約470年くらいと推定し、老樹の前で悠久の昔を感じてもらった。解説板は魅力あるタイトルをつけ解説は要領よくまとめてあるが、普段、利用者側はどのような反応を示しているのでしょうか、知りたいものです。



どのような仕事、スポーツ、趣味ごと等にもそのことに携わっている人にしか解らない略語、隠語のようなものがありますが、山言葉にも登山関係者だけにしか理解出来ないものがあります。山言葉の難しさは、その意味と動作や行為が簡単に結びつかないことでもありますが、その一部を紹介します。

①「一本立てる」{いっぽんたてる}

休憩、休息を意味しています。つまり、登山中に一息ついて小休止すること。

言葉の起源は「何十 Kg もの荷物を担いで山に登るのを職業としていた強力と呼ばれた人達が、荷物の下に杖を一本たてながら立ったまま休んだ」ことに由来する。荷物を休息の度に上げ下ろしするより、立ったままのほうが楽だったのです。その動作が休息の意味を持つようになり、山仲間関係者に広まったものです。

②「雉撃ち」「お花摘み」{きじうち}{おはなつみ}

生理現象、つまり「ウンチをする行為」のこと。「雉撃ち」のその語源は「猟師が鉄砲を抱えて草わらにしゃがみ込み、鳥の雉を狙う姿」にある。ちなみにこの言葉は男性の場合のみ使い、女性の場合は風流な言葉「お花摘み」となる。

③「武器」{ぶき}

ナイフや鉄砲のことでなく、箸やスプーン、フォークと言ったものを指す。

登山の際に共同で食料を分担して持ち込み調理する時に量的に限りがある。そこで共同炊事の食事時になると皆さん「武器」を手に我先に食べ物に襲いかかると言うことです。最近では食器全般を云うのが一般的です。

④「ラクッ」{落}{らく}

「落石」のこと。「ラクッ」と言う大声が上の方から聞えてきたら「落石」に注意の意味です。「落石」には、上から落ちてくる石のことで、自然風化の落石と登山者が起こす落石の二種類ある。どちらにしても、落石を起こしたり、見つけた場合には「ラクッ」と叫び、周囲に注意を促す。但し、少し石がずれただけで「ラクッ、ラクッ」と大騒ぎする登山者もいるが、あまり乱用しすぎるとオオカミ少年になってしまう場合もあるので注意。

⑤「右岸：左岸」{うがん：さがん}

河川や沢の兩岸を示す言葉。上流から下流に向かい、右側の岸を右岸、左側の岸を左岸と言う。ガイドブック等を見て、下流から上流に向かって歩いている場合等、自分の進行方向と川の右：左岸とが視覚的に逆となるため錯覚しやすいので、しっかり語彙を把握しておく必要がある。

⑥「浮き石」{うきいし}

不安定な状態で地面上にある石のこと。一見すると平で足を置きやすく見える

が、地面側に隠れた部分の形状や接地面が安定してない場合が多い。不用意に体重を預けると、バランスを崩して転倒する危険がある。注意深く見れば事前にわかる場合も多い。

⑦「かやと」

かやぶき屋根の材料として使われた草「カヤ」の繁った平坦な場所のかと。ガイドブック等で「かやとの中の登山道」と言う場合は、緩い斜面で日当たりの良い道のこと。

⑧「草付き」{くさつき}

ガイドブック等で「草付きの急斜面」等と使われる。沢の上部や丸みを帯びた岩場などに見られ、岩場が草に覆われている場所のこと。滑りやすく、滑落した場合重大な事故に直結する場所である場合が多い。

⑨「沈殿」{ちんでん}

山中で悪天候のために山小屋やテントから動かずにいること。

⑩「へつり」

沢や沢沿いの道で岩場等の障害物のために、やむなく水流のすぐ上の岩場などを横方向に移動すること。足を踏み外せば水流に落ちる。

また一般登山道でも「へつるようにつけられたルートを慎重に進む」等の表現で、同様な状況にある場所をいうこともある。

⑪「窓」{まど} = 「キレット」

高山の稜線が大きく切れ込んで落ちた場所を言う。信州の方言で、昔は「切戸」「切処」の漢字があてられた。また富山県側では「窓」と方言で言われる。高度感のある岩稜帯がほとんどで、通過にあたっては細心の注意が必要。

⑫「おろく」

山岳遭難又は何かの事情で山中で死亡した遺体を表す隠語。語源や詳細は不明だが、直接的表現を避けるため使われ、山岳を題材とした小説や文獻で使われることが多い。

⑬「三角点」{さんかくてん}

三角測量で緯度：経度が測定されるための基準点。一等から四等まであり、花崗岩で出来た角柱が地面に埋め込まれている。大抵、展望の良い山頂に設置されているが、必ずしも山頂にあるとは限らない。

以上つれづれなるままに、思いつくままに列挙しましたが、ガイドブックや小説に良く出てきたり、登山ツアーのガイドや山仲間などから良く聞かす意味を確かめ辛いと思われる語彙を並べてみました。他にも多々ありますが何かの機会に紹介したいと思います。

事務局便り

5月10日(水) 第一回役員会記録 於：環境サポートセンター 18:30～

1.総務部

名簿の発行は、退会確認⇒会員の確定⇒育成研修⇒その後に発行する

2.研修部

- ◆富良野東大演習林研修 6/30～7/1 エゾマツ第77号による周知は間に合わないのので、全会員に葉書を出す。手順 文面作成は事務局⇒総務部、三崎⇒発送
 - ◆鶴川海浜植物観察会 8/26～8/27 テーマ「鳥と花」 前もって日程が分かるようにする
 - ◆オホーツク支部研修会 9/16～17(土・日) 連絡先：事務局長 法師人春輝 電話0152-43-1942
- ※鶴川・オホーツクは、6月の広報で会員に周知する。

3.広報部

「エゾマツ第77号」は、6月15日原稿締め切り、20日頃に発行

4.事務局

(1) 育成研修

7月21.22.23日 登別ネイチャーセンター「フォレスト鉾山」 詳細が分かったら、広報で会員に周知する。また、会員は知人等に紹介するようにして欲しい。

(2) ボランティア保険加入について

年間300円×全会員数で加入している。その他、主催観察会は、20名でその都度加入。

(3) 役員の所属

	スタッフ	サポート
総務部	○三崎・橋場・高松	田村・田中・伊藤・今村
研修部	○小林・田中・伊藤・今村・荻野 春日・五十嵐	内山・佐藤・高松
広報部	○佐藤・内山・田村・熊野・中林	三崎・春日・橋場・五十嵐・荻野

(4) 自然ふれあい交流館との共催観察会の日程の原型

- 9:10 本日の確認・打ち合わせ <職員による>
- 9:30 受付「館内玄関付近」 <ボラレン3名(下見参加者から分担する) 補助職員1名>
- 9:30 ボラレンとの打ち合わせ「レクチャールーム」
 - ・コースや今日の観察会テーマの確認(観察終了時刻を揃える)
 - ・案内者はアンケート用紙をもっていくこと
- 10:00 観察会開始 ・司会 濱本 ・所長or次長or課長挨拶 ・会長挨拶
 - ・グループ分け(当番のボラレン会員が行う・次回しおりの原稿執筆者も手配する)
- 観察会出発
- 終了 ・アンケート用紙、名札の回収 ・グループごとに解散<交流館で>
 - ・道民カレッジへの対応
- 反省会 「レクチャールーム or ミーティングルーム」

(5) 共催観察会・主催観察会の対応、責任者～ 別表

(6) 共催観察会の交流食事の持ち方～5/14に結める

(7) 観察会記録(開花している植物、出現した鳥など) 下見日に記録

(8) 「自然観察会NOW」は、田村が継続執筆する。気づきやこだわり、ヒントを下さい。

(9) 20周年記念事業 役員会に詳細に因る時間の余裕がない。信頼するから、担当者と事務局で進め、開催期日に間に合うようにすること。会員への周知は、「エゾマツ77号」のみかな?

※全道の会員のみなさん!エゾマツ77号を見てください。そして、是非、参加してください。

①記念会員研修会 9月18日(月・祝日) 自然ふれあい交流館

講師：五十嵐恒夫(北大名誉教授) テーマ(仮)「森の生態系と菌類(キノコ)」
午前：講義 午後：フィールド <担当：五十嵐・事務局>

②記念講演会 10月中旬～下旬 テーマ(仮)「野鳥の話」 講師:大橋弘一(雑誌ファウラ代表) かでる2・7 または、エルプラザ 対象:会員・一般 <担当:荻野・事務局>

③会員作品展 10～11月 自然ふれあい交流館 応募要項を6月「エゾマツ」に掲載
<担当:女性役員・事務局>

④フィールドガイド作成 6月・第一回スタッフ会議<担当:作成スタッフ・田村>

5月14日(日) 春の有り難う観察会…野幌森林公園事務所との共催 観察会後の話し合いの中から

1.観察会当日には、もっと多くの自然の案内人としてのボラレン会員の参加が欲しい。下見と観察会当日と続きますが、宜しく願いたいものです。

2.指定管理者制度に関わること

<指定管理者制度とは>平成15年6月の地方自治法の改正により創設された制度です。民間の事業者、NPO法人、ボランティア団体なども含めて広く公募し、費用、企画などの提案内容から判断して、より相応しい施設の管理者を決めていく。民間の効果的効率的な手法を「公の施設」にも活用する。

自然ふれあい交流館は、平成19年度から指定管理者制度に移行決定。自然ふれあい交流館の観察会も、それに向けて体質改善を進めて行かなくては。

(1) 昨年度まで「野幌森林公園事務所主催」となっていますが、今年度からはボラレンとの「共催」となりました。

(2) 観察会当日の「しおり」は、自然ふれあい交流館で作成していましたが、今年度からは、原案作成をボラレンの方でということに。さっそく、6月11日分は、研修部の小林さんが作成。それをもとに、自然ふれあい交流館が作成することに。指定管理者が決まったら、ボラレンが作成することになるのかな。

(3) 自然ふれあい交流館に多くの人が入って欲しい。その一環として、食事を自然ふれあい交流館でとる観察会を設定しました。食事プラス人を引きつける展示などの工夫が欲しい。

5月14日(日) 20周年記念事業・富良野東大演習林研修・オホーツク支部研修会・釧路海浜植物観察会について、このころから、各担当との連絡や依頼などの開始。以後、少しずつ詰めていく作業が続く。

5月17日(水) 清田区社会福祉協議会へ

ボランティア活動保険・ボランティア活動等行事用保険の手続き

※会員の皆さんへ…自然観察会の際の本人の怪我や事故、それから、参加者の怪我や事故などがあつたときには、事務局に連絡してください。

5月23日(火) NPO法人・札幌観光ガイド社 理事長 内山辰雄さんより協力依頼

4月17日の読売新聞夕刊に、「緑豊かな都市づくり 本紙応援 樹名板307枚寄贈」という記事が掲載されている。そして、「読売新聞北海道支社は、7月に新読売北海道ビルがJR札幌駅前に完成するのを記念し、札幌市に対して17日、NPO法人『札幌ガイド社』(内山辰雄理事長)の協力で制作した樹木の名札「樹名板」計307枚を寄贈した。樹名板は、大通公園を中心に、市内の公園に生育するハルニレ、イタヤカエデなどの高木樹307本に設置する。…」と記事が続きます。

ここに書かれている内山さんからの協力依頼です。内容は、スポンサーの協力を得て、今後は、札幌市はもとより全道各地の公園の樹木に「樹名板」を取り付けたい。その際、樹木名の確定にボラレンの協力をお願いしたいということです。「協力する。」という返事をしました。今後、具体的な仕事が生じたときには会員の皆さまのご協力を得たいと思います。

6月1日(木) 野幌森林公園事務所から、6月11日の観察会参加のボラレン会員の氏名又は人数を事前に教えて欲しいの連絡あり。今まで、この様な態勢をとってこなかったのが困った。これも、指定管理者が決まったら必要だろうとのこと。今後の取り組みになる。

**5月31日(水) 平成18年度「自然教室」の協力依頼 石狩支庁地域振興部環境生活課自然環境係より
7月29日(土) 9:00～12:00 北広島レクの森 自然解説員4名の派遣要請が。**

5月下旬から、「えぞまつ77号」の原稿作成作業続く。「事務局だより」・「平成18年度観察会・研修会予定の修正」・「ボラレン20周年行事の集約と原稿作成作業(これは、締め切り日の6月15日直前までかかりそう)」など。

6月9日(金) 平成18年度ボランティア・レンジャー育成研修会の受講者募集の文書がメールの添付文書で届きました。育成研修会の継続は微妙な状況にあると聞きます。今年度が最後のチャンスかも。ボラレンの会員になって頂くためにも、知人などに紹介してください。

平成18年度

観察会・研修会予定

北海道ボランティアレンジャー協議会

月	観察会・研修会	実施日時	下見	集合場所	備考	当番
4	●「春の花を見つけよう」観察会	4.27 (木) 10:00~12:30	4.20木10:00	交流館 (大沢口)	共催	
5	●春の有り難う観察会	5.14 (日) 10:00~14:30	5.13 10:00	交流館 (大沢口)	共催・昼食持参	小林・春日 橋場・小林 田村・熊野・内山
	●恵庭公園観察会	5.21 (日) 10:00~12:00	5.20 10:00	恵庭公園駐車場	主催	
	●三角山登山観察会	5.28 (日) 10:00~14:00	随時	緑花会館登山口	主催	
6	●森の新緑観察会	6.11 (日) 10:00~13:00	6.10土10:00	交流館 (大沢口)	共催・交流会食事	小林・内山 佐藤・春日・我妻
	●北広島レクの森観察会	6.18 (日) 10:00~12:00	6.17土10:00	レクの森入り口	サークル活動	
	●富良野東大演習林研修	6.30~7.1		富良野郷郷	主催	
7	●初夏の森観察会	7.9 (日) 10:00~12:30	7.8土 10:00	交流館 (大沢口)	共催・昼食持参	小林・中林 今村・田村
	●芸術の森周辺観察会	7.23 (日) 10:00~12:00	7.22土10:00	停留所前	サークル活動	
8	●森の探検隊	8.3 (木) 10:15~12:30	7.27木10:00	開拓記念館	共催・昼食持参	熊野・伊藤
	●鱒川海浜植物観察会	8.26~27		鱒川四季の館	主催	
9	●秋の花で賑わう森を歩こう講演会 (20周年記念事業)	9.14 (木) 10:15~14:30	9.7木 10:00	開拓記念館	共催・昼食持参	田村・春日
	●オホーツク支部研修会	9月18日 (敬老の日)		自然ふれあい交流館		
	●写真展 (20周年記念事業)	9.16 (土) ~17 (日) 9月1日 (金) ~9月30日 (土)				
10	●森のにおいをかごう講演会 (20周年記念事業)	10.15 [日] 10:00~14:30 10月9日 (体育の日)	10.14土10:00	交流館 (大沢口) かでの2・7	共催・昼食持参	
	●晩秋の森観察会登壇別コース	11.3 (金) 10:00~14:30	11.2木10:00	交流館 (大沢口)	主催・昼食持参	
11	●秋の有り難う観察会	11.12 (日) 10:00~12:30	11.11土10:00	交流館 (大沢口)	共催・昼食持参	
	●西岡水源地自然観察会	11.23 (木) 10:00~12:30	11.22水10:00	管理事務所前	主催	
12	●冬の森の観察会	12.10 (日) 10:15~13:00	12.9土10:00	交流館 (大沢口)	共催・交流会食事	
1	●円山登山観察会	1.14 (日) 10:00~12:30	1.13土10:00	円山登山口	主催	
2	●藻岩山登山観察会	2.25 (日) 10:00~14:30	2.24土10:00	慈恵会登山口	主催	
3	●野幌の春を探そう	3.25 (日) 10:00~13:00	3.24土10:00	交流館 (大沢口)	共催・交流会食事	

※下見時も昼食持参 (出現動植物の確認記録や打ち合わせがあります)

◆18年度 活動の重点目標

森の楽しさを体感できる観察会のあり方をかんがえる。

- ・森の知識を伝える活動
- ・森から学ぶ活動
- ・森を介して人の輪を広げる活動

◆当会20周年の節目を意識し、メリハリのある観察会にしよう。

◆会員相互の研修会やサークル活動の活発化を図ろう。

ボラレン役員 平成18年度 ('06)

顧問	・大友 健	004-0074	札幌市厚別区厚別北4条2丁目6-21小山方
顧問	・佐々木幸夫	004-0004	札幌市厚別区厚別東4条8丁目4-20
顧問	佐藤 健一	061-2284	札幌市南区藤野4条7丁目277-74
顧問	川端 功治	063-0038	札幌市西区西野8条9丁目5-1
△ 会長	田村 允都	007-0811	札幌市東区東苗穂11条2丁目14-18
・副会長	五十嵐一夫	061-0234	石狩郡当別町西町28-12
・副会長・広報	佐藤 清一	061-1147	北広島市里見町3丁目8-4
・事務局長	春日 順雄	004-0865	札幌市清田区北野5条5丁目6-5
・総務	三崎 篤	002-8010	札幌市北区太平10条7丁目5-8
・会計	橋場 俊子	066-0037	千歳市新富3-14-6
・研修	小林 英世	061-1371	恵庭市恵み野東5丁目3-1
・局員	伊藤 秀平	065-0030	札幌市東区北30条東9丁目1-10
・	・内山 恭子	069-0841	江別市大麻元町164-39
・	・田中 利男	001-0906	札幌市北区新琴似6条4丁目3-13
・	中林 光司	064-0951	札幌市中央区宮ノ森1条7丁目3-1
・	今村ひろこ	005-0825	札幌市南区南沢5条4丁目9-1
・	×荻野 裕子	062-0041	札幌市豊平区福住1条6丁目1-13
・	熊野 美子	064-0943	札幌市中央区堺川3丁目15-22
監事	×猪師 勉	006-0816	札幌市手稲区前田6条9丁目11-8
・	高松 文雄	060-0008	札幌市中央区北8条西24丁目1-30-201

ボラレン20周年事業

五つの事業を展開します。沢山の会員の皆さまのご参加をお願いします。

記念会員研修会

- ◆期日：9月18日（敬老の日）
- ◆場所：野幌森林公園 自然ふれあい交流館レクチャールーム（江別市西野幌685-1）
- ◆講師：五十嵐恒夫（北大名誉教授）
- ◆参加対象：ボラレン会員
- ◆参加費：無料
- ◆日程：午前 10時～12時 講演
演題「森林とキノコ」
午後 1時～3時
フィールドで研修（交流館周辺）
- ◆用意：昼食・野外を歩く服装・ルーペ

記念会員写真展

- ◆期日：9月2日～9月30日
- ◆場所：野幌森林公園 自然ふれあい交流館ギャラリー（江別市西野幌 685-1）
- ◆作品展示対象：会員
- ◆募集要項別記

記念講演会

- ◆期日：10月9日（体育の日）
- ◆場所：かでのる2・7 520号室
札幌市中央区北2条西7丁目
- ◆講師：大橋弘一（雑誌ファウラ編集長）
- ◆講師略歴（早稲田大卒・野鳥写真家）
- ◆参加対象：会員及び一般
- ◆入場料：無料
- ◆演題（仮）「野鳥を通して自然を知る」
- ◆受付13:00 講演13:30～15:00
- ◆札幌に在住で「日本の野鳥」と「北海道の自然」の二大テーマをライフワークとして撮影している。

フィールドガイド作成

- ◆観察会等で役立つ動植物の特徴と解説のポイントを項目ごとに整理して記述する。
- ◆「エゾマツ」で呼びかけた作成委員を中核にして編集作成していく。
- ◆会員への配布は18年度末をメドに作業を進めていく。
- ◆必要に応じて会員へ資料の提供を求むるので協力を願いたい。

エゾマツ特集号の発行

12月10日に発行します。11月中旬原稿締切で、執筆をお願いすることがあります。ご協力をお願いします。

記念会員写真展募集要項

自然を対象にしたもので額に入れてあること。出展希望者は担当係宛、8月15日までに必要事項を記入の上、ハガキかファックスでお知らせ下さい。

<必要事項>

1. 住所・氏名・電話番号・出展枚数（一人二点まで、4ツ切り以下）
 2. 作品名、作品の大きさ（額を含む）
 3. 搬入方法：8月31日10:00～12:00 会場に持参・郵送のどちらか
 4. 搬出方法：9月30日 午後4時に会場に来る、あるいは返送希望（返送料は事務局で負担）
- なお、作品の取り扱い及び管理は、素人が行いますのでご了承下さい。
 - 記念会員写真担当：熊野美子
〒064-0943 札幌市中央区界川3丁目
15-22 (TEL・FAX 011-563-6531)
 - 詳細は担当の熊野迄問い合わせ下さい。

オホーツク支部の秋季講習会

ボラレン・オホーツク支部

- 1、日 時 平成18年9月16日(土)～17日(日)
- 2、場 所 「北見市自然休養村センター」
北見市若松651 ㉿0157-25-9675
- 3、日 程

9/16	9/17
15:00～受付	7:00～朝食
15:15～開会	
15:30～第一講習会	9:00～現地研修
16:50 終了	14:00 終了
17:00～第二講習会	14:30 閉会
	現地解散
17:30 終了	
18:00～懇親会	
- 4、内 容 第一講習会
「コクヅラの回遊について」—アースウォッチ参加報告—
当支部会員 滝の上町 富山光太郎 氏

第二講習会
「小清水原生花園のボランティアガイド活動について」
当支部会員 佐久間 麻奈美氏

現地研修
北見市 北見が丘周辺散策
当支部会員等によるガイド
- 5、参加費 宿泊費込み 1名@6,000円
日帰り懇親会のみ 1名@3,000円
- 6、出欠申し込み ボラレン・オホーツク支部 事務局 法師人春輝
㉿ 0152-43-1942迄

鵠川海浜植物観察会

8月27日(日曜日) 鵠川右岸、左岸において観察会を行います。前日に下見とネイチャーイン鵠川の方々ならびにボランティアレンジャー協議会の会員で懇親会を行います。今回は、夏の海浜植物とシギ・チドリの観察を行います。沢山の会員の参加をお願いします。

鵠川自然観察会日程

日 時	8月26日(土曜日)
集合場所	鵠川道の駅「四季の館」(鵠川町美幸町3丁目3-1 TEL01454-2-4171)
宿泊場所	鵠川町交流館(鵠川町美幸町4丁目)
参加費	2000円(宿泊の方) 懇親会のみ方1000円
集合時間	午後1時
下見開始	午後1時30分
下見終了	午後4時
自由時間	午後4時～5時(四季の館にて入浴または交流館へ移動)
買出し及び懇親会準備	午後5時
懇親会	午後6時～

8月27日	(日曜日)
起床	6時30分
朝食	7時00分
清掃	8時00分
移動	9時00分
受付開始	9時30分
観察会開始	10時00分
観察会終了	12時00分
解散	12時30分

尚、宿泊場所には寝具がありませんので、寝袋等を用意してください。

夕食は惣菜等を買って用意します。朝食はおにぎり等を買ってきますので準備の手伝い等よろしくお願いします。

車については相乗り等を考えていますので、協力お願いします。

参加される方は、8月20日までに研修部長小林まで連絡ください。

TEL・FAX 0123-36-3944 メール hideyof@mint.ocn.ne.jp

はがき宛先 恵庭市恵み野東5丁目3-1 小林英世

当体会員 猪師勉氏主宰による「自然体験塾」予定表です。

自然観察会実施予定表

〒006-0816 札幌市手稲区前田6条9丁目11-8

TEL/FAX:011-682-0874 猪師 勉

携帯:090-7512-5766

E-mail: taiken91@phoenix-c.or.jp

http://www.phoenix-c.or.jp/~taiken91/

自然体験塾

月日	観察会の種類	観察会の場所	集合場所	持ち物	備考
平成18年 2/19(日)	冬芽の樹々つる性の木観察	西岡水源池	午前9:00 管理事務所前		防寒用服装
3/26(日)	冬山登山と樹木観察	兼岩山	午前10:00 慈啓会病院前	昼食	防寒用服装・アイゼンが必要
4/29(祝)	植物観察	北大植物園内	午前9:00 北大植物園前		サンシュユやトサミズキの花が見られる
5/3(祝)	カタクリの大群落観察	花魁淵周辺	午前9:00 真駒内駅待合室	昼食	根の観察をします
5/5(祝)	神宮の樹々ウォッチング	北海道神宮境内	午前9:00 円山公園管理事務所前	双眼鏡 昼食	北海道に自生していない樹木を観察
5/21(日)	三笠炭鉱の跡地をたずねて			日帰り 2,500円 貸切バスG 午前8:00NHK前出発 ◎申し込みが必要	
6/4(日)	山菜の見分け方	手稲山ロープウェイ周辺	午前10:00 手稲山ロープウェイ前	ナイフ お椀・昼食	山菜料理を試食
6/18(日)	手稲鉱山跡地と滝巡り	手稲鉱山周辺	午前10:00 終点手稲鉱山バス停前	ナイフ 昼食	手稲鉱山と金山の地名の由来
7/2(日)	夏山登山	大倉山周辺	午前8:00 円山公園管理事務所前	昼食	三角山～大倉山～小別沢トンネル手前までを縦走
7/16(日)	樹木観察	野幌森林公園	午前9:00 大沢口駐車場	昼食	大木を中心に観察します
7/29(土)	ホテル観察	西岡水源池	午後7:00 管理事務所前	懐中電灯	小学校低学年の方は保護者同伴
8/6(日)	金山湖周辺とトマムの旅			日帰り 2,500円 貸切バスG 午前8:00NHK前出発 ◎申し込みが必要	
8/20(日)	浜辺の植物	石狩川河口周辺	午前9:00 石狩ビクターセンター	昼食	ハマボウフウ・ハマハタザオなど
9/10(日)	薬用植物観察	大倉山と荒井山周辺	午前9:00 円山公園管理事務所前	昼食	ヨモギ・イケマ・弟切草
10/1(日)	きのこ狩り	手稲山周辺	午前10:00 手稲山ロープウェイ前	ナイフ お椀・昼食	きのこ汁の試食と見分け方相談
10/15(日)	ニセコ神仙沼とふきだし公園の旅			日帰り 2,500円 貸切バスG 午前8:00NHK前出発 ◎申し込みが必要	
10/29(日)	天然ドライフラワーウォッチング	西岡水源池	午前9:00 管理事務所前	昼食	サビタ・ツルアジサイ・イワガラミ
11/5(日)	つるで花籠作り	荒井山周辺	午前9:00 円山公園管理事務所前	ハサミ 軍手・昼食	◎申し込みが必要 参加費1,000円(会員は除く)
平成19年 1/8(祝)	自然体験塾新年会			◎申し込みが必要	

※参加費300円(会員は除く)

※すべて雨天決行

平成18年度ボランティア・レンジャー育成研修会

受講者募集のお知らせ

北海道には豊かな自然環境があります。この豊かな自然を多くの人に楽しんでもらい、大切にしてもらうために、「ボランティア・レンジャー（自然解説員）」を育成するための初心者向け研修会を開催します。

研修会では、ふおれすと鉾山で実際に行われている「自然体験プログラム」を体験していただくほか、これらのプログラムを自分で企画・運営するための実習、いざという時に役立つ救急技術などの講義を行いますので、「自然」に興味・関心のある方、自然の中でボランティア活動をしてみたい方は、どなたでも気軽にご参加下さい。

記

○日時 平成18年7月21日(金) 13:00~23日(日) 12:30 (2泊3日)

○場所 登別市ネイチャーセンターふおれすと鉾山

(登別市鉾山8-3 電話 0143-85-2569) <http://www.noboribetsu.ed.jp/~ncenter/>

* JR 最寄りの駅は、幌別駅ですが、ここから現地への公共交通機関はありません。

○定員 30名(申し込み多数の場合は先着順)

○研修内容 自然体験プログラム(歴史と鉾石コース、リバートレッキング、水生昆虫など)
安全管理と実践救急技術を考える
自然体験プログラムの作り方(グループワーク)など

○参加費 12000円程度(全行程の宿泊費、食事代、保護料等含む)

* 現地までの交通費は各自負担願います。

* 当日は原則、現地集合・現地解散です。(会場に駐車場あります。)

○申込方法 ハガキ、FAX、Eメールにて下記の内容を記入し、お送り下さい。

《記入事項》氏名(ふりがな)、郵便番号、住所、年齢、性別、電話番号(FAX)、
Eメールアドレス、宿泊の有無、喫煙の有無、研修場所までの交通手段
(自家用車又は公共交通機関)

○申込締切 7月12日(水)

* 申し込まれた方には、別途、研修内容等詳しい資料をお送りします。

○主催等 主催：北海道 後援：登別市教育委員会

【申込み・お問い合わせ先】

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

北海道環境生活部環境局 自然環境課自然ふれあいグループ

TEL 011-204-5204

FAX 011-232-6790

Eメール kansei.shizen1@pref.hokkaido.lg.jp

関連ホームページ <http://www.pref.hokkaido.jp/kseikatu/ks-kskky/sizenhome/sizentop.htm>

編集後記

- ・今回は4月22日の定期総会の様子や5月10日の第一回役員会で話し合われた内容を掲載しています。今後とも会員のみなさんとの距離を近づけていくためにも総会や役員会で話し合われたことを載せていきたい。
- ・昨年につづき今年も6月30日から7月1日にかけて富良野の「東大演習林」で観察会、登山などが行なわれます。私たちにとっても研修の場である「野幌森林公園」につづく第二のフィールドになりつつあります。大いなる成果を期待しています。
- ・会員の皆さんも各種の観察会や研修会に参加して自己の研修を深めると共に会の活動を盛り上げてください。特に今年は20周年の記念行事も多く組んでいます。
- ・10月末発行の秋季号では「東大演習林」の特集を組み、12月上旬には「20周年記念特集」号を別枠でカラー写真などを入れて出したいと思っています。皆さんに寄稿をお願いしますことになります。詳細は次号でお知らせします。

「エゾマツ」 77号 夏季号
会長 田村 允郁
2006年6月23日発行